

# 斑点米カメムシ類情報第2号

令和4年8月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 水田内での大型の斑点米カメムシ類の発生が多い状況です

### 1 発生状況

7月下旬に県内52地点102ほ場で行った本田における20回すくい取り調査において、斑点米カメムシ類の捕獲数は、平均4.20頭（平成1.91頭、昨年2.00頭）と過去10年間と比較して最も多い状況です。特にクモヘリカメムシ、イネカメムシ及びミナミアオカメムシはそれぞれ過去10年間と比較して最も多い状況です（表1）。

表1 斑点米カメムシ類の7月下旬本田すくい取り調査結果（1ほ場あたりの平均捕獲虫数）

種類	発生量	本年	平成
ホソハリカメムシ	並	0.25	0.33
<b>クモヘリカメムシ</b>	<b>多</b>	<b>0.59</b>	0.21
シラホシカメムシ類	やや多	0.06	0.04
<b>イネカメムシ</b>	<b>多</b>	<b>1.29</b>	0.10
カスミカメ類	やや多	1.75	1.15
ホソナガカメムシ類	並	0.05	0.05
<b>ミナミアオカメムシ</b>	<b>多</b>	<b>0.21</b>	0.04
合計	<b>多</b>	<b>4.20</b>	1.91

四捨五入の関係で数値の合計が合わない場合があります。

（平成：平成24年～令和3年の平均値）

### 2 防除対策

防除対策については、7月15日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。特に、イネカメムシやミナミアオカメムシは斑点米産出能力が他の斑点米カメムシ類と比較して高いため、少数でも被害が大きくなります。また、イネカメムシは、出穂直後から加害し、不稔粒やしいなの原因になります。発生を確認したほ場では下表を参考に直ちに防除しましょう。また、使用する薬剤により防除時期が異なるので注意しましょう。

表2 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
トレボンEW	収穫14日前まで	3回以内	3A
キラップフロアブル キラップ粒剤	収穫14日前まで	2回以内	2B
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤 スタークル液剤10 スタークル／アルバリン粒剤	収穫7日前まで	3回以内	4A
スタークル豆つぶ エクシードフロアブル エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	3回以内	4C

**キラップ粒剤の散布適期は、出穂10日前から出穂期までなので注意する。**

成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、

[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/2021/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/2021/mechanism_irac03.pdf) を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。